

「夏の生き物調査」 ～生き物調査で分かる里山の生態系～

7/11(土)、調布地域協議会（生活者ネットワークも構成団体の一員）では、深大寺自然広場で、昆虫などの生息状況を探る調査を行いました。子ども23人を含む42人の参加者が、専門家のアドバイスを受けて草地や林の境界付近を丹念に探索し、ゴマダラチョウやバッタの仲間など、計22種の昆虫を捕獲しました。専門家から、鳥によるクワガタなどの捕食の痕跡や落ち葉を分解する昆虫などの説明があり、命の循環やこの地域の生態系が健やかに保たれていることを学ぶ貴重な機会となりました。

このような生き物調査を継続して実施する主な目的は、年ごとの生息データの変化を把握し、自然環境を長期的な視点で保全することにあります。こうした観測を積み重ねることで、地球温暖化などによる環境や生態系の変化の兆候を捉え、具体的な保護活動や環境保全施策へ活かすことができればと思っています。また、参加者が自然の魅力を体感することで自然環境に関心を持ち、大切な生物多様性を未来へつないでいけるよう、今後も定期的な調査を継続していきます。

D.K



シャボン玉月間の市長訪問 学校にはせっけんの設置を！

「シャボン玉月間」とは、せっけん運動ネットワークが「合成洗剤はやめてせっけんを使おう！」と地域や行政に呼びかける全国的な運動で、毎年7月に行われます。

それに先立ち、5月29日に市長を訪問し、シャボン玉月間に寄せるメッセージを依頼しました。その際、せっけんを使う大切さを訴えるとともに、学校現場で見聞きする「香害」で苦しむ子どもたちの声をお伝えしました。

新型コロナウイルスの発生時に手洗いや消毒が強化された際、薬用石鹸の使用で手が荒れたり、化学物質への過敏な反応が誘発されたりしたこと、暑い時期に、空調の効いた遮蔽された教室で教員が「エチケツ」と制汗剤スプレーをふりまくことによって、苦しさを訴える子がいることなどです。

養護教諭だった当時、保健室でできる対策として、保健日より香害について周知をしたり、学校の手洗いや保健室のリネンの洗濯洗剤にはせっけんを使用したりしました。



学校には、子どもたちが安全に生活できるように教室の照度、水道水の残留塩素の濃度など、細かく学校環境衛生基準が定められています。しかし、その基準に香害対応の項目がないため、その追加を求める署名活動（カナリア・ネットワーク全国）も起きています。子どもが長い時間を過ごす学校の環境改善に向けて、まずはせっけんの設置と学校環境衛生基準の見直しを両輪で声をあげていきたいと思います。

下村美智子（元養護教諭）

陳情

修学旅行中の生徒死亡事故をきっかけに、平和学習と安全管理をめぐり異なる立場から陳情が出された。

陳情第37号

市立中における平和教育の中立性や修学旅行の内容確認などを市教育委員会や学校に求める内容。教育に対する政治（市議会）介入を促す内容のため、三鷹市や町田市議会などは審議対象とせず、府中市や狛江市議会など多くの議会は不採択とした。れいわネット・にじいろの会も不採択を求めたが、チャレンジ調布、公明党、自民党新政会、日本維新の会、立憲民主党、次世代調布、調布ミライ会議が趣旨採択を求め趣旨採択となった。



陳情第40号

当校の平和教育への文部科学省の介入を問題視する立場からの陳情。採択を求めたが、前述の陳情と同様、多数が不採択を求め不採択となった。

調布市議会の多くの会派において、政治と教育の関係や教育の政治的中立性に対する認識が不十分であることが明らかになった。

陳情第39号

新たな遺伝子操作技術を使うゲム編集食品が、安全性が未確立のまま非表示で販売されているため、消費者が選べるよう表示義務を国に求める内容。採択を求めたが趣旨採択に終わった。

